

パットナムさんに聞く



「格差が深める米の分断」という朝日新聞 9 月 6 日のインタビューが示唆に富む。リードから一米社会の分断が深まっている。大統領選では、差別的で攻撃的な発言を繰り返す不動産王のドナルド・トランプ氏が一部の層から熱狂的支持を集め、共和党候補になった。米国の深層で何が起きているのか。著書「孤独なボウリング」で米コミュニティの崩壊を描くなど、米社会研究を続けるロバート・パットナムさんに聞いた。

パットナムさんの指摘はアメリカだけの問題ではない。日本においても、格差社会のひずみが子供にも影響している。一部でも紹介しておきたい。

パットナムさんの指摘はアメリカだけの問題ではない。日本においても、格差社会のひずみが子供にも影響している。一部でも紹介しておきたい。

「私は以前、『孤独なボウリング』という本で、米社会で様々な階層や人種を結びつけてきた宗教関連団体やボウリングクラブといった社会的組織が弱体化し、(人々のつながり度合いを示す)『社会関係資本』が低下している現象を分析しました。共和党の予備選では、社会関係資本が欠乏した地域であるほどトランプ氏が強い傾向が米メディアで指摘されました」

「社会的なつながりがなくなると、人は孤立します。すると他人への寛大さや、他人と自分が平等だという意識、さらには政治的に協力する姿勢が低下します。これは米国に特有ではありません」

「私は昨年出した『Our Kids (私たちの子供)』という本で、こう考察しました。『社会的に孤立している市民は、通常の状態では政治的安定にほとんど脅威を与えない。危険があったとしても、集団の無関心によって沈静化されるためだ。しかし、経済的や国際的な圧力が高まれば、こうした集団が不安定で、両極の反民主的な扇動家の操作を受けやすいことが証明されるかもしれない』、と。選挙前から、今の事態の発生を懸念していたのです」

「この国では現在、経済格差が広がっています。それだけでも重要なのですが、米国人は結果の均等よりも機会の均等を重視し、経済格差をあまり気にしてきませんでした。ところが、今はその機会の均等が失われています。だからこそ、子供に注目しました」

「経済格差の拡大に伴って、米国内の隔離が進んでいるのです。人種隔離は減少傾向にあります。周囲に住んでいる人や、一緒に学校に行く人、結婚相手となる人を決めるのは、経済的な状況が大きな要因になってきています。裕福な人は裕福な人と結婚し、裕福な人が多い地域に住み、子供の同級生も裕福な家庭の子供です。一方、貧しい人は貧しい人と結婚し、貧しい地域に住みます。その影響が子供に表れているのです」

(2016 年 9 月 12 日)